

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆景気「緩やかに回復」維持 1月の月例経済報告

・政府は1月の月例経済報告で、国内の景気判断を「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」と据え置いた。6カ月連続で同じ表現を維持。米国では20日にトランプ新政権が発足して大きな政策変更が進むものの海外経済の判断は現状維持。倒産件数の判断のみを上方修正。2024年は倒産件数が11年ぶりに1万件超。

◆貿易赤字4年連続、24年5.3兆円 円安で輸出額が過去最高

・財務省が発表した2024年の貿易統計速報によると、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は5兆3325億円の赤字だった。4年連続の赤字となった。赤字幅は前年比で44.0%縮小した。輸出入の数量はいずれも減少しているものの、歴史的な円安が輸出額を押し上げた。

◆中途求人倍率3倍超え 24年12月、過去2番目の高水準

・パーソルキャリアは2024年12月の中途採用求人倍率が前月比で0.33ポイント高い3.15倍になったと発表。初めて3倍を超えた23年12月の3.22倍に次ぐ高水準。求人が高水準で推移する中、年末は転職活動を手控える人が増えるため、求人数を転職希望者数で割って算出する同倍率の上昇に弾みが付いた。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆首都圏マンション供給、過去最少 24年は「少・高・狭」に

・不動産経済研究所は2024年の首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)新築マンションの供給戸数が前の年比14%減の2万3003戸だったと発表した。調査を始めた1973年以来、過去最少となった。需給逼迫によって物件価格の上昇と専有面積の縮小が進むなか、25年は「賃貸マンション」などの注目が高まりそう。

◆経団連・環境省「排出削減ぶれずに」米パリ協定再離脱

・不動産経済研究所は2024年の首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)新築マンションの供給戸数が前の年比14%減の2万3003戸だったと発表。調査を始めた1973年以来、過去最少となる。需給逼迫によって物件価格の上昇と専有面積の縮小が進むなか、25年は「賃貸マンション」などの注目が高まりそう。

◆企業の資金需要、4期連続上昇 建設・不動産で目立つ—日銀1月調査

・日銀は1月の主要銀行貸し出し動向アンケート調査を発表。過去3カ月の資金需要判断指数(DI)は、企業向けがプラス10(前回はプラス9)で、4期連続上昇。建設・不動産業で需要の伸び目立つ。DIは資金需要が「増加」「やや増加」の割合から「減少」「やや減少」を引いた値。建設・不動産は大企業向けがプラス15拡大。

《 注目商品 》

■YKK AP、トリプルガラス樹脂窓「APW 430/APW 430+」刷新

・高性能トリプルガラス樹脂窓の断熱性能を向上するとともに、窓種や仕様を拡充して刷新。トリプルガラス(アルゴンガス入)の空気層を16mmから18mmに拡げること断熱効果を最大化し、窓全体の断熱性能を約7%向上させた。



■プラス、両面を使えるホワイトボード「INTERNA(インテルナ)」

・創造的なオフィス空間に調和するインテリア性と、議論を止めずに板面をスクロールしながら両面を使えるホワイトボード「INTERNA(R)(インテルナ)」を発売。プラス独自のスクロール方式。手でスムーズにスライドできる2面分の板面、議論や思考が途切れしない。



■DCM、浮かせて収納できる「DCM マグネット付き風呂いす」

・風呂いす背面のマグネット部を浴室の壁面にくっつけることで浮かせて収納できる「DCM マグネット付き風呂いす」を発売。浮かせることで水切れが良くなり、ヌメリや水垢やカビが発生しにくく、清潔に使用できる。

